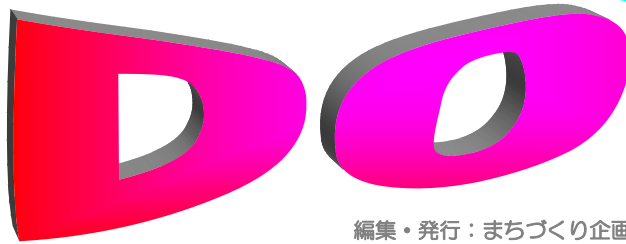




男女共同△情報メール

Vol.78



編集・発行：まちづくり企画部人権・男女共同参画課

平成26年7月31日

「DO!」：男女共同参画社会実現のために、職員一人ひとりが考え、そこから一歩進んで「実行する」ことを願って名付けました。

男女共同参画と防災対策

最近、突然発生する雷雨や巨大台風…そして地震や火山の爆発など…
いつ、どこで、どのような災害に見舞われるか、わかりません。
あなたは万が一の事態を、想像してみたことはありますか？

☆研修会に参加して…☆

7月22日（火）に「男女共同参画の視点からの防災対策を地域に広めるために」をテーマにした研修会が行われました。現在、国の防災計画では『女性や高齢者、障がい者などの参画を拡大し、男女共同参画その他の多様な視点を取り入れた防災体制』の確立が求められています。そこで今回、防災担当と人権・男女共同参画担当の職員2名が研修会に出席し、講義のほか、他市職員と共に避難所シミュレーションを体験しました。

☆様々なニーズ☆

食物アレルギーを持つ子どもや盲導犬を連れている人、乳幼児、妊婦、足の不自由な高齢者に外国人…ひとつの避難所に数百人の被災者が身を寄せ合ったとき、各自のニーズをどのように汲み取ればよいのか。どこまで対応出来るのか。時間の経過とともに問題も増えていきます。持病を抱える方の薬やおむつ、生理用品などの物資の不足や、被災者自身の心身のダメージなど想定出来ることには限りがありませんでした。



☆備えあれば…☆

話し合いでは「様々な立場の人の協力を得て、個別に情報収集する」「要配慮者は、途中から対応を変えるより、当初から別室で対応できるのが望ましい」「まさかの事態に備えて、日常欠かせない薬や入れ歯等は持ち出せるようにしておく」「個人でも日用品の備蓄を」といった意見が出ました。自分で出来ることはやっておく心構えが必要だと実感しました。

☆皆で乗り越える☆

講義の中で、東日本大震災の『震災関連死』の5割は、避難所などにおける生活の肉体的・精神的疲労が原因との報告がありました。誰にも相談出来ずに心身に不調をきたし、亡くなられた方も多いそうです。このような悲劇を防ぐには…

現場のリーダー役は男性が担いがちですが、単独では責任が重過ぎます。負担を分かち合うためには、複数のリーダー設置と女性リーダーの活躍が欠かせないこと、悩みや不安を口に出しづらい状況において、相談窓口になったり要配慮者への細やかな支援を行ったりと、女性にも責任を持って担える分野があること、そして、**女性ならではの視点を取り入れた避難所運営が求められている**ことが、この研修でわかりました。